

# 第1回国立大学法人大阪大学債券 「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」 サステナビリティボンドレポート

OU  
MASTER PLAN  
2027



THE UNIVERSITY OF OSAKA

2025年3月

- ◆ 債券概要「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」 P. 2
- ◆ OUマスタープラン P. 3
- ◆ 大阪大学の価値創造モデル P. 4
- ◆ サステナビリティボンド・フレームワーク P. 5
- ◆ 資金の充当状況に係るレポーティング P. 6
- ◆ インパクト・レポーティング P. 7

# 債券概要「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」

## 発行目的

大阪大学では、個々人が社会で活躍できる寿命(社会寿命)を延伸させ、あらゆる世代の人々がその多様性を生かして社会を支え、全ての人が豊かで幸福な人生を享受できる社会を創造すること、すなわち「生きがいを育む社会の創造」に取り組んでいます。

本学は、それを実現する中長期的な戦略である「OUマスタープラン」の実施に向けた財務基盤の強化を目的として、国内大学では初となるサステナビリティボンドを発行いたしました。

## 債券概要

債券の名称	第1回国立大学法人大阪大学債券 サステナビリティボンド 愛称 「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」	
債券の総額	金300億円	
利率	年1.169%	
償還の方法及び期限	2062年(令和44年)3月17日(金) 満期一括償還(40年債)	
払込期日(発行日)	2022年(令和4年)4月28日(木)	
格付	AA+ (株式会社格付投資情報センター) AAA (株式会社日本格付研究所)	
サステナビリティボンド・ フレームワーク評価	総合評価	SU1(F)*
	グリーン性・ソーシャル性評価(資金使途)	gs1(F)*
	管理・運営・透明性評価	m1(F)*

◆ 各評価は、株式会社日本格付研究所(JCR)の「JCRサステナビリティボンド・フレームワーク評価」よりいずれも高い方から、SU1(F)~SU5(F)、gs1(F)~gs5(F)、m1(F)~m5(F)の5段階

## 生きがいを育む社会の創造

個々人が社会で活躍できる寿命(社会寿命)を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造する「真のオピニオンリーダー」になる。



多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む

### 教育基盤

知性あふれる人材の育成環境  
未来社会のあり方を創造し、  
社会変革を導く人材の育成

### 研究基盤

自由な発想が芽吹く環境  
新たな社会の創造に資する  
基礎研究の推進と新たな価値の  
実装化への先導

### 経営基盤

共創を中核に据えた経営  
共創活動のレベルアップと  
教育・研究・業務システム改革による  
経営基盤の充実

コロナ新時代に対応する情報基盤整備

多様な人材が輝くグローバル戦略とDiversity & Inclusionの深化

自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出

社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開

## OUマスタープラン

私たちはこれまでに多くのステークホルダーと、今後の社会のあるべき姿や大学の使命等について、絶え間なく議論を重ねてきました。その結果、世界が複雑で深刻な課題に直面している今こそ、本学が持つ「知性」や「英知」を結集して新たな社会の仕組みを創り出し、「生きがいを育む社会」を創造していくことが必要だという答えにたどり着きました。その道標として策定した本学独自の中長期的な経営ビジョンが、「OU (Osaka University) マスタープラン」です。

OUマスタープランの特徴は、教育・研究・経営のそれぞれで貫徹される方針である縦軸の戦略と、それらを横断的に支える事項で通底する方針である横軸の戦略を織り合わせることで、網羅性と柔軟性を併せ持った中長期的な経営計画としているところにあります。

## OUエコシステム

OUマスタープランを実行するための基盤となる仕組みが、「OUエコシステム」です。本学では、自由な発想による研究の蓄積、人材育成を行うとともに、その卓抜した教育研究成果を社会で実装あるいは実践しています。その過程で明らかになった課題は再び大学に還元し、教育研究を発展させることで、「知」「人材」「資金」の好循環を生み出しています。

# 大阪大学の価値創造モデル

## INPUT

**多様な人材の育成やキャリア形成**

- ・キャリアを中断させない支援体制 **P16**
- ・知性あふれる人材の育成環境の構築 **P20**
- ・Industry on Campusの推進 **P33**

**新たな知を生み出す仕組み**

- ・自由な発想が芽吹く研究環境の構築 **P26**
- ・共創機構による産学官民との共創活動 **P32**

**社会課題に立ち向かうネットワーク**

- ・大学発スタートアップの創出・育成 **P36**
- ・海外拠点・ASEANキャンパス及び戦略的パートナー大学 **P14 / P46**

**戦略を実現する財務基盤**

- ・大学債 **P40**
- ・外部資金獲得実績 **P42**
- ・未来基金 **P48**

**教育研究環境への積極投資**

- ・Student Life-Cycle Support (SLICS) システム **P21**
- ・研究マネジメント体制の整備 **P31**

**省エネルギー、カーボンニュートラルに向けた取組**

- ・カーボンニュートラルと持続可能なキャンパスに向けた取組 **P38**
- ・マテリアルバランス・エネルギー使用量 **P39**

### OU マスタープラン各戦略

### 経営基盤

**教育**

知性あふれる人材の育成環境

未来を創造する人材を社会とともに育てる教育環境の構築 **P20**

**研究**

自由な発想が芽吹く環境

社会変革実現の基礎となる革新的研究成果の創出と協働による新価値創造の推進 **P26**

**共創**

共創を中核に据えた経営

共創のレベルアップー地域から世界に伸びるオープンイノベーションによる経営基盤の充実 **P32**

豊かな知と心

技術の革新

生涯学ぶ

心身の健康

持続可能な社会

多様性と共生社会の実現

### 社会との共創

人類の大きな課題の解決

人類の脅威の克服によるレジリエントな社会の実現

激変する社会への人の適応力の向上

新産業の創出による多様な人々の社会参画

Well-being

人々の社会とのつながり

社会寿命の延伸

生きがいを育む社会の創造

※上記のページ数は、「大阪大学統合報告書2024」の掲載ページを示しています。

大阪大学統合報告書2024

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/integrated\\_report/2024](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/integrated_report/2024)



# サステナビリティボンド・フレームワーク

<p>調達資金の 用途</p>	<p>ソーシャルプロジェクト 国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業かつ、「OUマスタープラン2027」として特定された事業</p> <p>グリーンプロジェクト 国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業かつ、「OUマスタープラン2027」として特定された事業 さらに、以下1～3のいずれかを満たす事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ZEB、ZEB Ready等を取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得</li> <li>2. LEED認証、BELS認証等の環境認証を取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得</li> <li>3. 太陽光発電設備の導入に関する事業</li> </ol>												
<p>PJの 評価と 選定 プロセス</p>	<p>適格プロジェクトの候補は、OU構想策定会議において決定されます。当該候補へサステナビリティボンドの資金を充当するにあたっては、教育研究評議会および経営協議会の審議を経て、役員会で議決を行います。 なお、適格プロジェクトの実施に付随する環境面及び社会面において想定される負の影響については、影響を緩和し、管理していることを予め確認しています。</p>												
<p>調達資金の 管理</p>	<p>調達資金は、大阪大学の財務会計システムにより入出金管理を行います。サステナビリティボンドによる資金の充当状況に係る帳簿は、財務会計システムにより記録した上で償還まで保管します。 サステナビリティボンドの入出金を含む財務状況全般について、年に一度、監査法人による会計監査を受けることとなっています。 なお、適格プロジェクトへの充当時期の遅れ等によりサステナビリティボンドによる調達資金の未充当期間が発生する場合、未充当金は現金または現金同等物にて管理・運用しています。</p>												
<p>レポーティ ング</p>	<p>(1)資金の充当状況に係るレポーティング 大阪大学は、サステナビリティボンド発行から、サステナビリティボンドにて調達された資金が全額適格プロジェクトに充当されるまでの間、調達資金の充当状況に関する以下の項目について開示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 充当したプロジェクトのリスト</li> <li>2. 各プロジェクトにおける充当金額</li> <li>3. 未充当残高（償還までの間に資金充当対象設備を売却し再充当の必要がある場合を含む）</li> </ol> <p>(2)インパクト・レポーティング 大阪大学は、サステナビリティボンド発行から償還されるまでの間、サステナビリティボンドの発行により実現する事業のインパクトを測定する重要指標について、実務上可能な範囲において以下の通り開示します。</p> <table border="1" data-bbox="224 1133 2195 1468"> <tr> <td colspan="3" data-bbox="224 1133 2195 1189"> <p>ソーシャルプロジェクト</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="224 1189 851 1316"> <p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設や設備の概要等</li> </ul> </td> <td data-bbox="851 1189 1612 1316"> <p>&lt;アウトカム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数等</li> <li>・ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数及び単位取得数等</li> </ul> </td> <td data-bbox="1612 1189 2195 1316"> <p>&lt;インパクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との共創による「生きがいを育む社会」の創造</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="224 1316 2195 1372"> <p>グリーンプロジェクト</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="224 1372 2195 1468"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境認証等の取得状況</li> <li>・太陽光発電設備における発電容量・CO2排出削減量</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>ソーシャルプロジェクト</p>			<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設や設備の概要等</li> </ul>	<p>&lt;アウトカム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数等</li> <li>・ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数及び単位取得数等</li> </ul>	<p>&lt;インパクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との共創による「生きがいを育む社会」の創造</li> </ul>	<p>グリーンプロジェクト</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境認証等の取得状況</li> <li>・太陽光発電設備における発電容量・CO2排出削減量</li> </ul>		
<p>ソーシャルプロジェクト</p>													
<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設や設備の概要等</li> </ul>	<p>&lt;アウトカム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数等</li> <li>・ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数及び単位取得数等</li> </ul>	<p>&lt;インパクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との共創による「生きがいを育む社会」の創造</li> </ul>											
<p>グリーンプロジェクト</p>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境認証等の取得状況</li> <li>・太陽光発電設備における発電容量・CO2排出削減量</li> </ul>													

# 資金の充当状況に係るレポーティング

大阪大学債によって調達した資金は、「生きがいを育む社会の創造」の実現を目指し、「OUマスタープラン2027」の下で実施する以下の適格プロジェクトに充当されます。

## 資金充当状況（2025年3月時点）

適格プロジェクト名	充当額
① 産学官共創活動の推進を目的とした、文部科学省が推進するイノベーション・コモンズ（共創拠点）の整備	224億円 (74.7%)
② Well-being実現のための未来社会創造に資する教育研究環境の整備	
③ 教育・研究・経営を横断的に支える基盤の整備	40億円 (13.3%)
未充当残高（2027年度までに充当予定）	36億円 (12.0%)
調達額	300億円

- ◆ ①、②のプロジェクトについては、両プロジェクトを横断する取組に資金を充当しています。
- ◆ 未充当残高は、①～③のプロジェクトに充当されるまでの間、現金または現金同等物にて適切に管理・運用します。

- ① 産学官共創活動の推進を目的とした、文部科学省が推進するイノベーション・コモンズ（共創拠点）の整備
- ② Well-being実現のための未来社会創造に資する教育研究環境の整備

## ／ ソーシャルプロジェクト

不足する教育研究・産学連携スペースの確保、学生が企業や地域コミュニティなどと交流するスペースを整備するとともに、多様な研究者の叡智を結集して、分野を超えた融合研究を推進します。

アウトプット	ラボ棟（仮称：吹田アゴラ、豊中アゴラ）の建設等（2026年度以降 竣工予定）
アウトカム	ラボ棟（仮称：吹田アゴラ、豊中アゴラ）に関する研究者数 関係する研究者による学術論文数 ※竣工後に開示予定
インパクト	<p>プロジェクトの達成を通じ、「社会と知」の融合と幅広いステークホルダーとの交流・連携・協働を促進し、様々な社会課題を解決する技術の開発によって、「生きがいを育む社会の創造」を実現します。</p> <p>また、持続可能な社会の実現のため、右記のSDGsに貢献します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> </div>

## ／ グリーンプロジェクト

環境認証等の 取得状況	建設するラボ棟（仮称：吹田アゴラ、豊中アゴラ）は、ZEB認証等、環境認証取得予定
----------------	--

## ／ 進捗状況

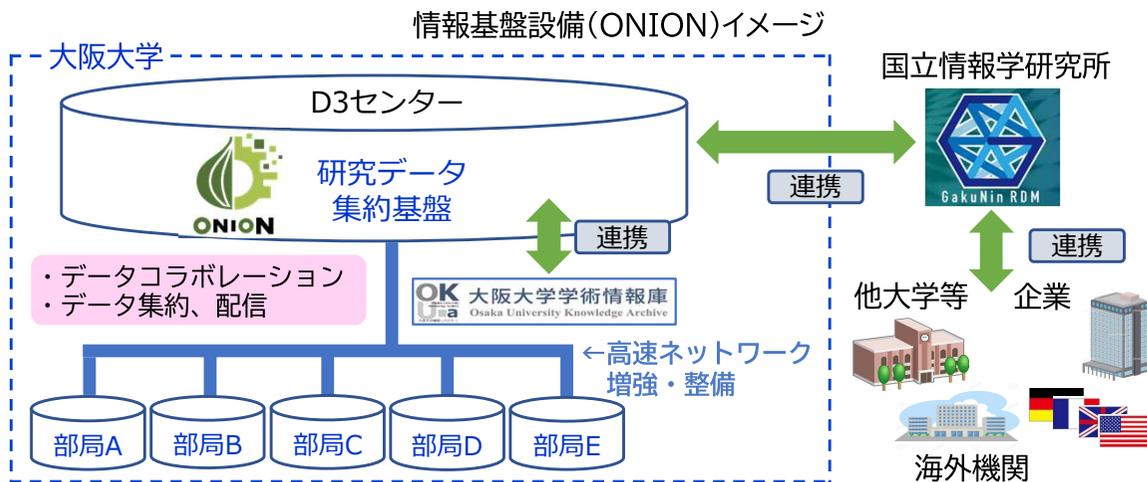
吹田アゴラ (規模：約8,850㎡)	豊中アゴラ (規模：約15,000㎡)
実施設計中	入札手続き中 (設計・施工一括発注方式)
(今後のスケジュール) 施設整備 2025年8月：着工予定 2027年3月：完成予定	(今後のスケジュール) 設計・施設整備 2025年4月：着手予定 2028年3月：完成予定

## ③ 教育・研究・経営を横断的に支える基盤の整備

### ソーシャルプロジェクト

コロナ新時代に対応する情報基盤や多様な人材が輝く、安全かつ快適で持続可能なキャンパス空間の整備により、本学の教育・研究・経営の基盤を支えるキャンパス整備を促進します。

<p>アウトプット</p>	<p>情報基盤設備（ONION）に代表される教育・研究設備の整備（2025年度 整備完了予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・D3センターのサーバ棟改修、顔認証等のセキュアな管理機能を備えた設備整備（2025年9月 完了予定）</li> <li>・ONION拡張、高速ネットワーク機器整備（2025年度 完了予定）</li> </ul>
<p>アウトカム</p>	<p>本学の研究データを情報基盤設備（ONION）に集約・蓄積し、大学全体で一元的に運用管理することによる、オープンサイエンス及びデータ駆動型研究等の飛躍的な推進</p>
<p>インパクト</p>	<p>プロジェクトの達成を通じて、学内のみならず、産業界など全世界との研究データ連携が可能となり、共創による社会課題の解決を促進することで、「生きがいを育む社会の創造」を実現します。</p> <p>また、持続可能な社会の実現のため、右記のSDGsに貢献します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div> </div>



### ONION概要

本学のオープンサイエンス及びデータ駆動型サイエンスの研究活動に欠かせない研究データは、学内において各研究室や部局で個別に管理されていますが、これを情報基盤設備（ONION）に集約、蓄積し、大学全体で一元的に運用管理し、より安定・安心かつ高速な研究データ基盤へのアクセスが実現することで、ビッグデータの解析にも耐えうるようになり、本学のオープンリサーチ・オープンイノベーションの飛躍的な加速が期待できます。

また、国立情報学研究所（NII）が提供するGakuNin RDMと連携させることにより、他大学・企業・海外機関等と安心かつ高速なデータ連携ができ、地域共創、国際共創、産学共創に活用することが可能になります。